

中学・高校・大学生の敬語意識

濱 崎 賢太郎

(武庫川女子大学文学部教育学科)

Consciousness of Honorific Expressions among Present-day Young People (from High School through University)

Kentaro Hamasaki

Department of Education

Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663

The author investigated how the Japanese traditional honorific expressions, which have been changing rapidly after the War, are recognized among present-day young people; junior and senior high school students and university students.

The author gathered the data by questionnaire from the following students: 159 boy students at Rokkho Junior High School, 138 boy students at Rokkho Senior High School, 150 girl students at Mukogawa Junior High School, 144 girl students at Mukogawa Senior High School, 100 boy students and 100 girl students at Hyogo Prefectural Hyogo High School, 156 students at Mukogawa Women's University.

The students were grouped according to their ages and the official school divisions they belong to, and sexes thereof. The percentage was calculated for each group, and then it was compared with that of the similar studies previously done, such as by the National Japanese Language Institute in 1952-1953 and 1972.

はじめに

日本語の著しい特徴である敬語のあらわれ方は、きわめて複雑であり、そのあらわれ方を分析してみるのが敬語研究である。日本人の敬語行動は、大まかな一定の社会的基準はありながら、実際には、人によって異なる場合が多い。これが「敬語が混乱している」という一つの原因でもある。

戦後は、敬語は封建時代の遺習であるから、民主主義の世の中では、「廃止すべきである」との極論もあったが、「各人の基本的人格を尊重する相互尊敬」の上に立つ社交敬語で、平明・簡素な方向へと向かっているが、その実態を知ることは、わが国の国語教育、中でも敬語教育にとって重要なことだと思われる。

1. 研究の目的

言葉は時代の推移、社会の変化につれて変わっていくものである。現代のわが国では、昭和20年を境に国語は大きく乱れたと言われる。中でも敬語の乱れは甚だしく、国民の敬語意識も変化してきた。その実態調査は、数回国立国語研究所等で行われているが、中学校、高等学校、大学でその実態が調査され発表されているものは案外少ない。

学習指導要領が、昭和43年以降改訂のたびに、小学校、中学校、高等学校で、敬語の指導は重視されてきているが、その効果が表れてきているのかどうか。

このたび、中学生、高校生、大学生が、それぞれの学校の教育の中で、意図的に、あるいは無意図的に、敬語がどのように身につけられ、どのような敬語意識を持っているかを調査した。そして、それぞれの実態を知るとともに、変化の状態を知るために、先行の調査と比較できるものは比較し、その変化の原因を探り、将来の国語教育における敬語教育の参考に資するつもりである。

2. 研究調査の方法

アンケートによる調査

対象者 女子中学校・高等学校の各3年生 男女共学の高等学校の3年生
男子中学校・高等学校の各3年生 女子大学の3年生

以上の学生、生徒について、同一の問題でアンケート調査をした。

各学校の3年(回)生を選んだ理由は、当該学校での2年以上の教育を受け、当該学校の教育の影響を最も長く(大学生は除く)受けている学年で、ある意味で、当該学校の国語教育(国語科教育も含め)の成果を身につけているものと考えられる。

3. 調査の内容

日 時 平成元年7月中旬

調査対象	私立六甲中学校3年生	男子	159名	
	私立六甲高等学校3年生	男子	138名	
	私立武庫川中学校3年生	女子	150名	
	私立武庫川高等学校3年生	女子	144名	
	兵庫県立兵庫高等学校3年生	男子	100名	女子 100名
	武庫川女子大学文学部教育学科3年生	女子	156名	
	中学生 309名	高校生 482名	大学生 156名	合計 947名

私立六甲中学校・高等学校は、神戸市内にある、中学、高校各12学級のキリスト教系私学で、全員が進学の男子校である。私立武庫川中学校・高等学校は、阪神間の西宮市内にあり、中学24学級、高校47学級、武庫川女子大学への、中高大の一貫教育を目指し、全員が進学の女子校である。兵庫県立兵庫高等学校は、神戸市内にある31学級の県立学校で、全員が進学の男女共学校である。

一貫教育における中学校、高等学校、また男子女子のそれぞれの実態を調査し、男女共学校の高校生男子女子と単独校の高校生との比較を調べるのにも好都合である。

各学校の学校長に依頼し、それぞれの国語担当教諭の御協力を得て、各3学年の中から2～3クラスを抽出し、実施していただいた。大学では濱崎が担当した。

アンケートの問題

次の1～9の問いについて、それぞれの選択肢の中から一つだけ選んで、その記号に○印をつけてください。なお理由の必要なものは、その理由も書いてください。

1. あなたは、目上の人と話すとき、うまく敬語が使えますか。

- A うまく使える B 大体うまく使える C ぶつう
D あまりうまく使えない E うまく使えない F その他

2. あなたは、今以上に敬語をうまく使えるようになりたいと思いますか。その理由とともに教えてください。

- A はい 理由()
B いいえ 理由()

3. これからの日本社会では、敬語が使われることは少なくなると思いますか。それとも、現在より多く

使われるようになると思いますか。

- A 少なくなる B 多くなる C 変わらない

4. あなたは、これからの敬語についてどう考えますか。

- A もっと簡素にした方がよい B 昔のようにきちんとするべきだ
C どちらともいえない D わからない

5. 敬語は次のうちどこで最も必要とされると思いますか。

- A 家庭 B 学校 C 職場 D 一般社会

6. お宅では、家族の方の間で敬語を使うことがありますか。 A ある B ない

7. 前の6で「A ある」と答えた方は、家族内のどなたがどなたに使っていますか。

() が () に対して)

8. 家庭内で敬語を使うことに関して、あなたの考えは、次のうちどれに近いですか。

- A よそよそしくなるので全く使いたくない
B 親しき仲にも礼儀ありなのでどんどん使うべきだ
C ほどほどに使うことが好ましい
D その他 ()

9. あなたは、女性は男性よりも丁寧な敬語を使うべきだと思いますか。

- A はい B いいえ

アンケートの処理

中学生、高校生、大学生間の違いを見るために三つに分けた。さらに、中学生、高校生のなかにおいて、男女の違いをも見るために、各項を二つに分けた。さらに先行の調査との比較できるものものことも考え、10代20代でもまとめ、さらにこれも男女に分けた。最後に調査者全体についてもまとめた。

表の数字の見方は、各項の最初の数字が実数を示し、括弧内の数字は、右端の「人数」の欄を100としたときのパーセントを示す。

4. 敬語意識の実態

アンケート調査による敬語意識の実態は、次のとおりである。

表一 あなたは、目上の人と話すとき、うまく敬語が使えますか。

- A うまく使える B 大体うまく使える C ふつう D あまりうまく使えない
E うまく使えない F その他

		A	B	C	D	E	F	人数
中 3	全 体	17(5.5)	58(18.8)	114(36.9)	80(25.9)	26(8.4)	14(4.5)	309
	男 子	13(8.2)	25(15.7)	53(33.3)	42(26.4)	13(8.2)	13(8.2)	159
	女 子	4(2.7)	33(22.0)	61(40.7)	38(25.3)	13(8.7)	1(0.7)	150
高 3	全 体	31(6.4)	142(29.5)	157(32.6)	99(20.5)	40(8.3)	13(2.7)	482
	男 子	24(10.1)	95(39.9)	58(24.4)	37(15.5)	19(8.0)	5(2.1)	238
	女 子	7(2.9)	47(19.3)	99(40.6)	62(25.4)	21(8.6)	8(3.3)	244
10 代	全 体	48(6.1)	200(25.3)	271(34.3)	179(22.6)	66(8.3)	27(3.4)	791
	男 子	37(9.3)	120(30.2)	111(28.0)	79(19.9)	32(8.1)	18(4.5)	397
	女 子	11(2.8)	80(20.3)	160(40.6)	100(25.4)	34(8.6)	9(2.3)	394
女大3(20代)		2(1.3)	37(23.7)	54(34.6)	54(34.6)	8(5.1)	1(0.6)	156
調査者全体		50(5.3)	237(25.0)	325(34.3)	233(24.6)	74(7.8)	28(30.0)	947

表-2 あなたは、今以上に敬語をうまく使えるようになりたいと思いますか。
その理由とともに答えてください。

- A はい 理由 ()
B いいえ 理由 ()

		A	B	無記入等	人数
中 3	全 体	178(57.6)	120(38.3)	11(3.6)	309
	男 子	67(42.1)	84(52.8)	8(5.0)	159
	女 子	111(74.0)	36(24.0)	3(2.0)	150
高 3	全 体	334(69.3)	136(28.2)	12(2.5)	482
	男 子	137(57.6)	96(40.3)	5(2.1)	238
	女 子	197(80.7)	40(16.4)	7(2.9)	244
10 代	全 体	512(64.7)	256(32.4)	23(2.9)	791
	男 子	204(51.4)	180(45.3)	13(3.3)	397
	女 子	308(78.2)	76(19.3)	10(2.5)	394
女大3(20代)		150(96.2)	6(3.8)	0(0)	156
調 査 者 全 体		662(69.9)	262(27.7)	23(2.4)	947

表-3 これからの日本社会では、敬語が使われることは少なくなると思いますか。
それとも、現在より多く使われるようになると思いますか。

- A 少なくなる B 多くなる C 変わらない

		A	B	C	無記入	人数
中 3	全 体	194(62.8)	23(7.4)	82(26.9)	9(2.9)	309
	男 子	90(56.6)	16(10.1)	46(28.9)	7(4.4)	159
	女 子	104(69.3)	7(4.7)	37(24.7)	2(1.3)	150
高 3	全 体	239(49.6)	20(4.1)	220(45.6)	3(0.6)	482
	男 子	121(50.8)	8(3.4)	109(45.8)	0(0)	238
	女 子	118(48.4)	12(4.9)	111(45.5)	3(1.2)	244
10 代	全 体	433(54.7)	43(5.4)	303(38.3)	12(1.5)	791
	男 子	211(53.1)	24(6.0)	155(39.0)	7(1.8)	397
	女 子	222(56.3)	19(4.8)	148(37.6)	5(1.3)	394
女大3(20代)		69(44.2)	7(4.5)	79(50.6)	1(0.6)	156
調 査 者 全 体		502(53.0)	50(5.3)	382(40.3)	13(1.4)	947

表-4 あなたは、これからの敬語についてどう考えますか。

- A もっと簡素にした方がよい B 昔のようにきちんとするべきだ
C どちらともいえない D わからない

中学・高校・大学生の敬語意識（浜崎）

		A	B	C	D	無記入	人数
中3	全体	117(37.9)	23(17.4)	189(28.8)	70(22.7)	10(3.2)	309
	男子	72(45.3)	12(7.5)	42(26.4)	24(15.1)	9(5.7)	159
	女子	45(30.6)	11(7.3)	47(31.3)	46(30.7)	1(0.7)	150
高3	全体	148(30.7)	61(12.7)	206(42.7)	61(12.7)	6(1.2)	482
	男子	73(30.7)	42(17.6)	96(40.3)	24(10.1)	3(1.3)	238
	女子	75(30.7)	19(7.8)	110(45.1)	37(15.2)	3(1.2)	244
10代	全体	265(33.5)	84(10.6)	295(37.3)	131(16.6)	16(2.0)	791
	男子	145(36.5)	54(13.6)	138(34.8)	48(12.1)	12(3.0)	397
	女子	120(30.5)	30(7.6)	157(39.8)	83(21.1)	4(1.0)	394
女大3(20代)		36(23.1)	20(12.8)	88(56.4)	12(7.7)	0(0)	156
調査者全体		301(31.8)	104(11.0)	383(40.4)	143(15.0)	16(1.7)	947

表-5 敬語は次のうちどこで最も必要とされると思いますか。

A 家庭 B 学校 C 職場 D 一般社会

		A	B	C	D	失格 二つ以上 選択	人数
中3	全体	1(0.3)	15(4.9)	80(25.9)	162(52.4)	51(16.5)	309
	男子	1(0.6)	12(7.5)	42(26.4)	75(47.2)	29(18.2)	159
	女子	0(0)	3(2.0)	38(25.3)	87(58.0)	22(14.7)	150
中3	全体	1(0.2)	11(2.3)	173(35.9)	265(55.0)	32(6.6)	482
	男子	1(0.4)	11(4.6)	71(29.8)	136(57.1)	19(8.0)	238
	女子	0(0)	0(0)	102(41.8)	129(52.9)	13(5.3)	244
10代	全体	2(0.3)	26(3.3)	253(32.0)	427(54.0)	83(10.5)	791
	男子	2(0.5)	23(5.8)	113(28.5)	211(53.1)	48(12.1)	397
	女子	0(0)	3(0.8)	140(35.5)	216(54.8)	35(8.9)	394
女大3(20代)		0(0)	0(0)	45(28.8)	108(69.2)	3(1.9)	156
調査者全体		2(0.2)	26(2.7)	298(31.5)	535(56.5)	86(9.1)	947

表-6 お宅では、家族の方の間で敬語を使うことがありますか。

A ある B ない

		A	B	無記入	人数
中3	全・体	43(13.9)	258(83.5)	8(2.6)	309
	男子	18(11.3)	135(84.9)	6(3.8)	159
	女子	25(16.7)	123(82.0)	2(1.3)	150
高3	全体	48(10.0)	432(89.6)	2(0.4)	482
	男子	27(11.3)	221(88.7)	0(0)	238
	女子	21(8.6)	211(90.6)	2(0.8)	244

10代	全体	91(11.5)	690(87.2)	10(1.3)	791
	男子	45(11.3)	346(87.2)	6(1.5)	397
	女子	46(11.7)	344(87.3)	4(1.0)	394
女大3(20代)		30(19.2)	126(80.8)	0(0)	156
調査者全体		121(12.8)	816(86.2)	10(1.1)	947

表-8 家庭内で敬語を使うことに関して、あなたの考えは、次のうちどれに近いですか。

- A よそよそしくなるので全く使いたくない D その他()
 B 親しき仲にも礼儀ありなのでどんどん使うべきだ
 C ほどほどに使うことが好ましい

		A	B	C	D	無記入	人数
中3	全体	160(51.8)	7(2.3)	112(36.2)	21(6.8)	9(2.9)	309
	男子	95(59.7)	5(3.1)	42(26.4)	11(6.9)	6(3.8)	159
	女子	65(43.3)	2(1.3)	70(46.7)	10(6.7)	3(2.0)	150
高3	全体	272(56.4)	7(1.5)	157(32.6)	42(8.7)	4(0.8)	482
	男子	134(56.3)	6(2.5)	69(29.0)	29(12.2)	0(0)	238
	女子	138(56.6)	1(0.4)	88(36.1)	13(5.3)	4(1.6)	244
10代	全体	432(54.6)	14(1.8)	269(34.0)	63(8.0)	13(1.6)	791
	男子	229(57.7)	11(2.8)	111(28.0)	40(10.1)	6(1.5)	397
	女子	203(51.5)	3(0.8)	158(40.1)	23(5.8)	7(1.8)	394
女大3(20代)		60(38.5)	3(1.9)	82(52.6)	9(5.8)	2(1.3)	156
調査者全体		492(52.0)	17(1.8)	351(37.1)	72(7.6)	15(1.6)	947

表-9 あなたは、女性は男性よりも丁寧な敬語の使うべきだと思いますか。

- A はい B いいえ

		A	B	無記入等	人数
中3	全体	157(50.8)	137(44.3)	15(4.9)	309
	男子	85(53.5)	66(41.5)	8(5.0)	159
	女子	72(48.0)	71(47.3)	7(4.7)	150
高3	全体	228(47.3)	247(51.2)	7(1.5)	482
	男子	120(50.4)	114(47.9)	4(1.7)	238
	女子	108(44.3)	133(54.5)	3(1.2)	244
10代	全体	385(48.7)	384(48.5)	22(2.8)	791
	男子	205(51.6)	180(45.3)	12(3.0)	397
	女子	180(45.7)	204(51.8)	10(2.5)	394
女大3(20代)		84(53.8)	69(44.2)	3(1.9)	156
調査者全体		469(49.5)	453(47.8)	25(2.6)	947

5. 調査結果の考察

表-1は、敬語使用意識の調査であり、自分自身ではどの程度敬語が使える。また使っている、と思うかについて、被調査者自身の内容を尋ねたものである。¹

「うまく使える」が、中学生で5.5%、高校生で6.4%、女子大生で1.3%。「うまく使えない」が中学生で8.4%、高校生で8.3%、女子大生で5.1%となっている。両方とも、中学生、高校生の間にはほとんど差はないが、女子大生は、両方とも低い。しかし、女子のみを比べてみると、「うまく使える」は、中学、高校、大学の間にはほとんど差がないことがわかる。

吉岡泰夫氏が1983年熊本県の高校生（三高校）を調査した結果²と比較してみると「うまく使える」が3.8%、「たいへん苦手である」が4.3%で、両方とも男子女子の差はほとんどない。

中学、高校、大学の調査者全体では「うまく使える」が5.3%で、国立国語研究所（以下「国研」と略称）の昭和27・8年調査（以下「27調査」と略称）の20.7%、昭和47年調査（以下「47調査」と略称）の14%、「うまく使えない」は「27調査」の32%、「47調査」の27.5%に比べると、熊本県の高校生の場合と同様に極端に少なくなっている。「国研」「47調査」結果に「20年前に比べて今回は「うまく使える」と「うまく使えない」の両極の回答がほぼ同じくらい減少し、その分だけ中間の回答が多くなっている。この現象は、性別、年齢別、学歴別の多くの層でも見られる³と同じ傾向を示しているものといえよう。それにしても、このたびの調査では両極が極端に少なくなっている。これは、中学、高校、大学生にとっては敬語はむずかしいものとの意識があり、しかも、中学、高校等で、的確な指導を受けていないので、うまく使えるという自信のなさがあらわれているのではなからうか。反面、「うまく使えない」が少ないのは、学校生活、友人仲間の生活で改まった場合の経験が少なく「金八先生シリーズ」で見られるような言語生活をしている場合が多くて、うまく使えないという意識が薄くなったのではなからうか。

中学生、高校生においては、女子よりも男子の方が「うまく使える」と思っている者が数倍も多い。「国研」の調査にもその傾向は現れているが、いずれの回も2倍以下である。女子の低い理由は、女子大生も含め、女性は男性よりも、丁寧な敬語を使うべきだと思うか（表-9）と問いかげられると反発はするが、「うまく使えるか」との問いになると、社会通念から、男性なみにあるいはそれ以上にうまくしゃべっていても、うまく使えたとは意識していないのではなからうか。

女子大生については、昨年私の指導学生立石が、女子大1回生を主に80名を対象にした調査結果では「うまく使える」は1.3%で全く同じだったが、「うまく使えない」は3.8%と少なかった。

表-2は、表-1の内省のもとに、敬語を今以上にうまく使えるようになりたいかの質問に、「はい」と答えたのは、中学生が57.6%、高校生が69.3%、女子大生が96.2%で、学校段階が上がるにつれて、敬語の必要性を感じていることがわかる。そして中学生、高校生を比較すると、表-1の「うまく使える」とは反対に、女子の方が圧倒的に、うまく使えるようになりたいと思う者が多い。女子大生については、立石の調査結果より3回生ということで、若干（1.3%）多くなっている。

表には出ていないが、「はい」の理由は、中学・高校・大学生を通じて、「将来社会に出た時に必要であり役に立つ」「目上の人と話すとき、人間関係をスムーズにする」等に含まれるものがほとんどであった。「いいえ」の理由は「現在大体使えており、別に困らない」「今のままで十分」というのがほとんどであった。

表-3は、日本社会での敬語の使用はどうなると思うか、を尋ねたものである。それに対して「少なくなる」の答は、中学生が一番多く、高校生、大学生と少なくなっている。「多くなる」は、全体に少なく、「変わらない」が、中学、高校、大学と段階が進むにつれて、「少なくなる」と反対に多くなっている。中学生は、社会の状態、人間関係に占める敬語の役割等が十分理解できていないのではなからうか。数は少ない中でも、「多くなる」が、高校、大学の約2倍の数値を示していることからもうかがわれる。

表-4は、表-3に関連し、それでは「これからの敬語についてどう考えるか」の意見を尋ねたものである。昭和27年4月14日に、文部大臣に国語審議会が建議した「これからの敬語」⁴の基本方針に示されている「平明簡素」の理解が、中学校にはストレートに行き渡っているのか、あるいは、わずらわしいと考えていることとか、表-2の「敬語がうまく使えるようになりたいと思いますか」の「はい」「いいえ」とも関連してか

「Aもっと簡素にした方がよい」は、中学生が最も多く、高校生、大学生と低くなっている。高校生、大学生ともなれば、理屈では簡素がよいと思うが、現実社会を見ると、そう簡単に割り切れないものを感じるであろう。さりとて「昔のようにきちんとすべきだ」にも踏みきれず、「どちらともいえない」が「簡素にした方がよい」と逆の結果を示している。理想と現実とのギャップに苦しんでいるところであろうか。

NHK昭和54年の調査⁵と比べてみると10代後半で男子57%、女子45%だが、本調査では、男子が36.5%、女子が30.5%と20~15%低くなっている。

表-5は、「どこで最も必要とされるか」を尋ねたが、表-2の「はい」の理由と関連して、「一般社会」が中学生、高校生がともに50%台、女子大生が69.2%と高い。中学生には、職場と一般社会との区別ができにくかったのか、あるいは、問題の最初に「……選択肢の中から一つだけ選んで、」を忘れたのか二つの項目以上に○印をつけた者がかなりあった。それは失格で処理した。

表-6は、「家族どうして敬語を使う」か否かという内省を尋ねたものである。「使う」と答えたのは、中学生、高校生、女子大生ともに10%台で非常に少なく、その差は余りない。したがって、その反対の「使わない」は、各段階ともに非常に多く80%台で、高校生が突出しているものの、その差はそう多くない。

調査者全体では「使う」が12.8%、「使わない」が86.2%である「国研」⁶「27調査」では「使う、ときに使う」を合わせて、37.1%、「国研」⁷「47調査」では23.9%、「使わない」は「国研」⁸「27調査」で59.4%、「国研」⁹「47調査」で74.5%と20年間で、ともに約15%増減している。17年後の今日は、調査対象に若干の違いはあるものの、約12%の増減を示している。「国研」¹⁰「47調査」の「敬語使用意識」では「この20年間に社会全体としては「家族に対しては敬語を使わない」という意識が強くなっているといえる」⁷とあるが、その後の17年間に、この傾向は一層強まっていると言える。

これと、父親や母親の権威の失墜、家庭内暴力との相関関係が見出せるのではなからうか。

男子についてみても、中学生、高校生を合わせた男子の「使う」は11.3%に対し、「国研」⁸「27調査」では43.4%、「47調査」では26.6%となり、40年前には男女間に差があったのに、このたびは男女差がなくなっている。

表には出ていないが、「使う」場合は、「子（自分）が両親に」「母が父に」「母や父や私が祖父母に」「家族が父に」使っている。

10代後半を比較してみても「使う」11.5%に対し「国研」⁹「27調査」では37.0%、「47調査」では19.6%、「使わない」は、87.2%に対し「国研」¹⁰「27調査」では60.5%、「47調査」では80.4%と「使わない」方向に動いている。

表-8は、「家の中でも敬語を使うべきかどうか」の意見を尋ねてみた。中学生、高校生の半数以上が「全く使いたくない」と考えているが、女子大生は、年齢的にも、精神的にも成長しているのか、10%低くなっている。しかし、女子だけについてみると、高校生が50%を越えているものの、中学生も、女子大生も50%を割っている。

10代後半を見ると「全く使いたくない」が54.6%に対し「国研」¹⁰「27調査」では「使わなくてもいい」が38.3%、「47調査」では69.6%となっている。「国研」¹¹「39調査」では39.7%となっている。

高校生については「全く使いたくない」が56.4%に対し、専修大卒石川茂氏の、昭和44年調査発表¹¹によれば「敬語を使う必要がない」は32.6%となっている。

表-6で、家族の間では敬語を使うことがないのが80%以上でありながら、「全く使いたくない」は全体で52%と大分差がある。表-6は、選択肢が二つであったためにも考えられるが、「国研」では、「ときに使う」と「使う」¹²をあわせてあるので、内省と意見との違いであろうか。それとも「ほどほどに使うことが好ましい」との中間の選択肢を入れたためであろうか。

表-9は、「女性は男性よりも丁寧な敬語を使うべきか」との意見を尋ねた。日本の古い伝統的な考え方が戦後どう変わったかを見ることが出来る。「はい」「いいえ」ともに半々と言うところで、肯定する方が僅かながら多い。高校では否定が多く、中学、大学では肯定が多い。男女同権の思想が普及し、定着してきたことを示す指標と考えてよいのではなからうか。

以上で各表ごとの調査結果の考察を終わるが、紙数の関係もあり、先行の調査研究の結果も、十分取り入れ

て考察することができなかった。それらについては後日に譲りたい。

6. 結果の概要

このたびは、中学・高校・大学生の敬語意識についてアンケートによる、実態調査をし、できるものは先行調査との比較も試みたものである。比較は20年ごとに行われた「国研」の資料を使って、その推移をも見た。

「国研」[47調査]の「結果の概要」¹³にも言われておるように「目上に対する敬語使用」は、敬語が使える方向に変化したと言える。「うまく使える」は減っても、「うまく使えない」が減り、中間に集まってきたといえる。

「家族どうしの敬語使用」では、「使わない」が増加している。¹⁴しかし、「使わない」という意識と、「家の中でも敬語は使うべきか」との意見間には若干の隔たりが見られる。

「これからの敬語」については、「簡素化」を望む意見よりも、現状肯定ともとれる「どちらともいえない」の現実主義の方が多い。意識としては「敬語が使われることは少なくなるだろう」と思いながらも、そのくせ敬語を今以上に「うまく使えるようになりたい」と思っている。

「国研」[47調査]の「まとめ」¹⁵の中に「敬語の使い方については、この20年間大きな変化はなかった。大筋としては変わっていないことになる。」とあるが、調査の結果は、このとおりでないものもあることがわかる。

おわりに

このたび中学・高校・大学生の敬語意識の実態調査を発表することにしたが、いろいろな制約のもとに十分なことができなかった。今後、敬語知識、敬語行動の実態をも調査して、敬語に対する、中学生、高校生、大学生の実態を総合的に把握したい。それによって、小学校、中学校、高等学校、大学における国語教育、なかでも敬語教育の方法を考えていきたい。

この調査研究にあたり御協力下さった各中学、高等学校の校長ならびに関係教諭に御礼申し上げます。またこの拙文をまとめるにあたり御指導、御協力を賜った各位にも御礼申し上げます。

注

1. 国立国語研究所『敬語と敬語意識 国立国語研究所報告77』1983
2. 吉岡泰夫「敬語行動における知識・態度・意識・使用」『熊本短大論集第38巻第1号抜刷』p. 29 1987
3. 注1に同じ p. 51
4. 『ことばシリーズ1 敬語』文化庁 p. 84 1974
5. NHK総合放送文化研究所「日本人の言語意識」『放送文化研究年報No.25抜き刷り』p. 205 1980
6. 注1に同じ p. 111
7. 注1に同じ p. 55
8. 注1に同じ p. 111
9. 注1に同じ p. 111
10. 注1に同じ p. 117
11. 小学館『新しい敬語』小学館 p. 35 1983
12. 注1に同じ p. 111
13. 注1に同じ p. 55
14. 注1に同じ p. 45
15. 注1に同じ p. 245

(1989年9月27日受理)